

実験・観察の安全指導



事故防止のために

磁石は身の回りのものに多く使われています。磁気を使用したものに磁石を近づけると、記録された内容が壊れてしまうことがあるため、取り扱いには特に気をつけさせましょう。また、磁石を振り回してけがをすることがないように、目を見張らせておくことも必要です。

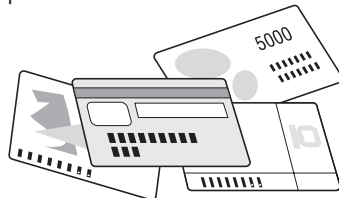
●児童に渡す前に点検をする

棒磁石やU形磁石など、使用する磁石の磁力が弱くなっていたら、実験結果がうまく現れません。前もって着磁しておくといでしょう（着磁装置は児童に触らせない）。

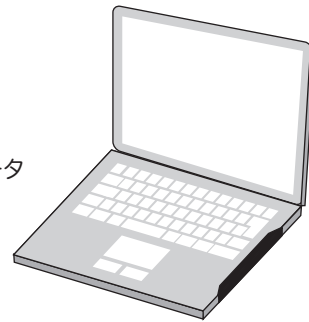
●磁石を近づけてはいけないものを伝える

- 図書カード・キャッシュカードなどの磁気カード、コンピュータやタブレットなどの磁気を利用しているメディアなどに磁石を近づけると、記録された内容が壊れてしまいます。
- 磁力を帯びたものを方位磁針に近づけすぎると、方位磁針が磁石に磁化されて、方位磁針の極が変わってしまうことがあるので、気をつけるように事前に指導しましょう。

図書カード・キャッシュカードなどの
磁気カード



コンピュータ

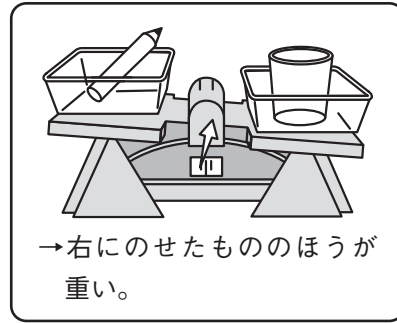


●実験するときの注意点

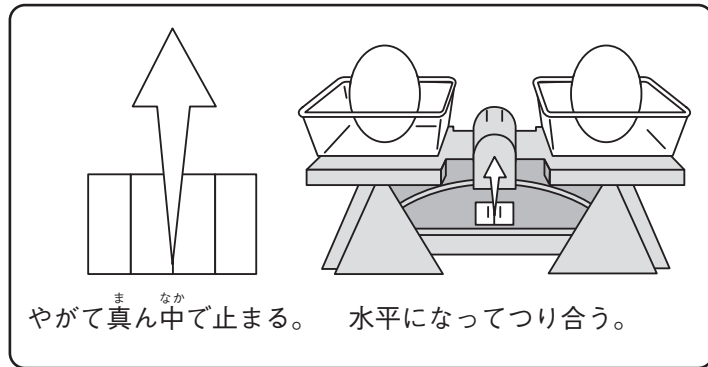
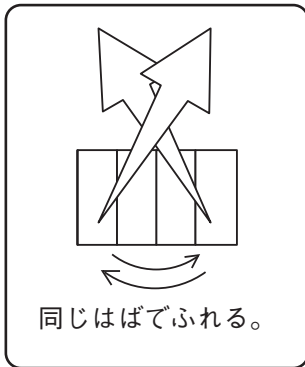
- 指などを磁石ではさんで、けがをしないように注意させます。
- フェライト磁石などを落とすと、簡単に割れてしまうことがあるので、気をつけさせます。
- ネオジウム磁石は、磁力が強力なので、扱い方を指導しましょう。
- 砂鉄は、飛び散らないように注意して扱わせます。

てんびんの使い方

てんびんは、左右の皿にのせたものの重さがちがうとき、重いほうにかたむく。



左右にのせたものの重さが同じとき、はりのふれはばが左右で同じになり、やがて水平になって止まる。このようなときてんびんは、つり合っているという。



てんびんを使うときの注意

